

保健主事の活動上の問題に関する一考察

井筒次郎*・石川明夫**・中馬充子***・吉田瑩一郎*

(平成 10 年 10 月 20 日受付, 平成 10 年 12 月 21 日受理)

A Study on the Role of the Health Co-ordinator at School

Jiro Izutsu, Akio Ishikawa, Mitsuko Chuma
and Eiichiro Yoshida

This study is surveying 423 health co-ordinators of elementary school, junior high school, and senior high school. 77 men and 139 women co-ordinators answered the questionnaire, which consist of 51.1 percent of them.

The survey clarified the existence of some problems on their role, and provide us some implications of the solution.

1. There are 2 points on the role of health co-ordinators, which they evaluate; an appropriate operation of controlling health care at school and adjustment of curriculum and health care education, while they do not evaluate the scores of school health care.

2. More than 80 percent of health co-ordinators have many kinds of problems on their activities at school, which is difficult to summarize simply.

3. More than 90 percent of health co-ordinators are cooperative with school nurses. School nurses, who work as a health co-ordinator, understands school health care very well. Their activities are very good, because they also work according to opinions of teachers.

But, it is better to hire another school nurse, to lessen the burden of an additional post.

4. It is necessary to construct the training system for inspiring the desire, self-confidence, and their hope to continue the job as a health co-ordinator.

Key words: Health co-ordinator, Actual situation of activities, Ideal image

キーワード: 保健主事, 現状の問題, 理想像

はじめに

制度としての保健主事の確立は、1958 (S. 33) 年の学校保健法制定によってである。そして、1995 年 3 月 28 日付の学校教育法施行規則一部改正により、保健主事には教諭だけでなく、養護教諭も含めて広く適切な人材をあてることができるようになった。

「児童生徒等の健康の保持増進に関する施策について」(保健体育審議会答申 1972 年 12 月)において、「保健主事は、学校保健委員会の運営にあたり、養護教諭の協力のもとに学校保健計画の策定の中心となり、また、計画に基づく活動の推進にあたっては、一般教員はもとより、体育主任、学校給食主任、学校医、学校歯科医および学校薬剤師等すべての職員による活動が組織的かつ円滑に展開されるよう、その調整に当たる役割をも

つものである。」と示されており、学校保健活動の企画および調整に当たることを役割としていることが理解できる。

学校保健の目的は、①児童生徒および教職員の健康の保持増進を図ること、②集団教育としての学校教育活動に必要な保健安全的配慮を行なうこと、③自ら健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することにあるが¹⁾、こうした目的の実現には、当然、保健主事の活動のあり方が大いに関与するといえよう。

学校保健活動の企画および実施の調整に当たる保健主事の具体的な役割として『保健主事の手引』は、①学校保健と学校教育全体との調整に関すること、②学校保健計画の作成とその実施に関すること、③保健教育の計画作成とその適切な実施の推進に関すること、④保健管理

*日本体育大学, **日本体育大学大学院, ***西南学院大学

の適切な実施に関すること、⑤学校保健に関する組織活動の推進に関すること、⑥学校保健の評価に関することの6つを示している²⁾。また、吉田は保健主事に求められるものとして、①学校保健に熱意をもっていること、②企画性に富んでいること、③全教職員の意見を聞き、生かしていくことができること、④養護教諭のよきパートナーとして相互の役割を發揮できるようにすること、⑤教育活動の全般に精通していると同時に、⑥校務分掌の他の部門の教職員との協力関係が円滑にできることなどを示している³⁾。ところが、学校教育法施行規則の一部改正(1995年)によって、保健主事には養護教諭も充てることができるようになって以降、こうした役割を担う保健主事の活動実態を具体的に把握するとともに、活動上の問題点を明確にして、それらの解決策等について言及したものは見当たらない。そこで本研究は、保健主事の活動上の問題を明らかにするとともに、学校保健の成果をより一層向上させるうえで、保健主事のあるべき姿について考察するための基礎的資料を得ることを目的とした。

方 法

1. 対象

対象は小・中・高等学校の保健主事423名である。対象の選定は、97年度版『全国学校総覧』(原書房刊)を用い、系統抽出によって各都道府県ごとに小・中・高等学校ともそれぞれ3校ずつを選んだ。

2. 方法

方法は質問紙郵送法であり、質問紙は本論末尾に掲載した。なお、結果の処理は χ^2 検定を用い、5%未満の危険率(p)を有意水準として、 $p < 0.05$ を*、 $p < 0.01$ を**、 $p < 0.001$ を***として表中に示した。

3. 期間

調査期間は1997年11月～1998年1月である。

結果および考察

1. 回収数等

回収数は216件、回収率51.1%であった。

2. 調査対象者の特性

(1) 性別構成

表1に調査対象者の性別を学校段階別に示した。

調査対象のはぼ1/3が男性教員、2/3が女性教員である。学校段階に着目すると、小学校、中学校では7～8割が女性教員であり、高等学校では男性教員が8割近くを占めていることが示されている。()内に『平成9年度学校基本調査』による学校段階ごとの教員の性別構成を

表1 性別

	小学校 n=97	中学校 n=73	高等学校 n=48	計 N=218
男子	20.6 (35.2)	27.4 (60.3)	77.1 (77.1)	77名
女子	78.4 (64.8)	71.2 (39.7)	22.9 (22.9)	139名
N.A.	1.0	1.4		2名

()内は平成9年度『学校基本調査』による性別構成比

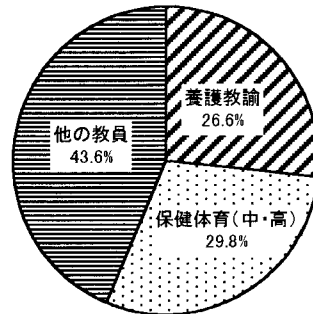


図1 教科担当

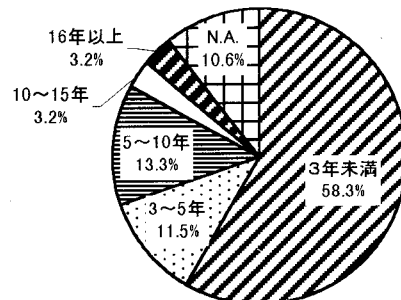


図2 経験年数

示したが、その構成比率と比較して見ると、小学校、中学校では女性教員の充てられる割合が高く、高等学校では構成比率と同じ割合で充てられていることが理解できる。

(2) 教科等の担当

調査対象者の担当教科等について図1に示した。なお養護教諭は担当教科ではないが、本論では主に「養護教諭」「保健体育科教員」「その他の教員」の3分類で考察を加えることとしたため、便宜的に担当教科と表記した。

調査対象に占める担当教科の構成比率は、養護教諭を本務とする者が約1/4、保健体育科教員である者が3割弱、残りがその他の教員となっている。

(3) 保健主事としての経験年数

図2は保健主事としての経験年数について示したものである。

3年未満の者が6割近くを占め、5年まで含めると約7割になる。この結果は、保健主事がおよそ5年以内に替わる場合の多いことをうかがわせるものである。

保健主事に充てられる年齢について『保健主事の手引』は、「特に新規採用など経験の少ない者を充てることは、その趣旨からも望ましくない。」と示しているが⁴⁾、仮に本調査の対象者を教諭としての経験年数が3年未満で線引きして見ると、該当者は小学校で3名(3.1%)、中学校では4名(5.5%)、高等学校では0名であり、教諭としての経験の浅い者は充てないとする趣旨とある程度符合している。なお、本論の保健主事としての経験年数別に考察を加えたほうが望ましいと思われる内容については、結果を経験年数3年未満と3年以上の者に分類して示し検討することとした。

3. 日常の活動の中で留意している事項

表2は、保健主事が日常の活動の中で「留意している」(「十分留意している」+「留意している」)と回答した割合が高かった項目の上位10を示したものである。

『保健主事の手引』は、保健主事の6つの役割のそれぞれについてさらに詳細な職務の内容を解説している⁵⁾。本調査の設問(1)はこの詳細な解説をもとに項目として起こしたもので、それぞれ次のように対応してい

る。①学校保健と学校教育全体との調整に関すること(1~5)、②学校保健計画の作成とその実施に関すること(6~11)、③保健教育の計画作成とその適切な実施の推進に関すること(12~16)、④保健管理の適切な実施に関すること(17~27)、⑤学校保健に関する組織活動の推進に関すること(28~32)、⑥学校保健の評価に関すること(33~38)である。

38項目のうち、全体で約80%以上が「留意している」と回答した項目に着目すると、①学校保健と学校教育全体との調整に関する内容が3項目、④保健管理の適切な実施に関する内容が6項目含まれていることがわかる。保健主事は、学校保健に関する計画の立案とその円滑な実施を図るための連絡調整にあたる者であるが、実際にはどのような内容により留意して活動しているかが明らかにされた。

担当教科別に見ると、内容によって留意の程度に差があることが示されている。つまり、20. 定期健康診断に際して全校的に健康意識が高められるよう配慮する、7. 学校保健計画の作成にあたっては、児童生徒の実態を生かすよう努める、18. 健康観察を通して児童生徒の心身を把握し、教育活動に生かすよう努める、の3項目で有意差が認められ、保健体育科教員のこれらの項目に対する留意の程度が、養護教諭やその他の教員に比べて低いことが示されている。本調査のみでこの理由は説明しえ

表2 職務上留意している割合が多い事項(上位10位/38)

(%)

留意している	養護教諭	保体教員	他の教員	全 体	
	n=58	n=65	n=93	N=216・%	
19. 定期や臨時の健康診断が全教職員の協力のもとに円滑に実施できるよう調整する	96.6	96.9	95.7	208	96.3
1. 児童生徒の健康状態や健康生活の実施状況、学校環境衛生の実態等を把握する	91.4	87.7	92.5	196	90.7
20. 定期健康診断に際して、全校的に健康意識が高められるよう配慮する	94.8	70.8**	96.8	191	88.4
7. 学校保健計画の作成にあたって、児童生徒の実態を生かすよう努める	87.9	73.8**	93.5	186	86.1
18. 健康観察を通して児童生徒の心身を把握し、教育活動に生かすよう努める	84.5	73.8**	93.5	184	85.2
23. 児童生徒が快適な学校生活をおくれるよう美化活動を推進する	86.2	80.8	87.1	183	84.7
21. 学校環境衛生の定期点検や日常点検が適切に行なわれるようにする	81.0	78.5	90.3	182	84.3
3. 学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付ける	75.9	78.5	84.9	174	80.6
2. 児童生徒の健康問題を学校運営の重点課題とし、解決が図られるようにする	79.3	75.4	83.9	173	80.1
24. 児童生徒の健康生活の実践状況を把握し保健指導の計画や改善に役立てるよう努める	82.8	72.3	81.7	171	79.2

ないが、保健主事の職務を遂行していく際に、本来の職務内容の違いによって留意の程度の異なる項目があるということである。

4. 活動上留意していない事項

表3は、逆に、活動上「留意していない」（「余り留意していない」+「ほとんど留意していない」）と回答した割合が高かった項目を順位付け、上位10を示したものである。

全体で見ると、「留意していない」上位10項目の中に、⑤学校保健に関する組織活動の推進についての内容が2項目（29, 14）、⑥学校保健の評価に関する内容が5項目（35, 36, 34, 33, 37）含まれていることがわかる。特に、35. 学校保健活動の評価の基準、36. 評価の時期、34. 評価について対象事項を明確にすること、29. 校内研修を計画・実施することでは、4～5割の教員が「留意していない」と回答しており、学校保健を推進していくうえでの問題点が示唆されている。また、評価について留意されていないという状況は、各学校における学校保健の課題がどの程度達成されたかが明確にされていないことをうかがわせるものであるし、研修が十分でないということは、学校保健に関する教職員の資質の向上が図りにくい状況にあることを示唆している。

また、「留意していない」割合を担当教科別に見ると、⑥学校保健の評価に関する内容の4項目（35, 36, 33, 37）および②学校保健計画の作成とその実施に関することの1項目（8）で有意差のあることが示され、ほかの教員よりも養護教諭や保健体育科教員のほうに「留意していない」と回答する割合の高いことが示されている。こうした結果から、保健主事としての職務をより一層充実・推進していくうえでの現状の課題は、特に評価のあり方について総合的に見直しを図ること、研修のあり方を考慮することであると指摘できる。

5. 活動上の問題の有無とその内容

表4に活動上の問題の有無を、表5に困っている内容について示した。

活動上困っていることが「ある」と回答した保健主事は全体で86.1%を示し、担当教科や経験年数による差は認められない。つまり、担当教科や経験年数にかかわらず、問題を抱えながら活動している保健主事が多いという実態が示されている。

職務上困っている内容に着目すると、「その他」がもっとも多く約1/4を占めている。ただし、「その他」の内容については記述を求めているので、具体的問題の中身については明らかにできない。以下、特定の内容に対す

表3 職務上留意している割合が少ない事項（上位10位/38） (%)

留意していない	養護教諭	保体教員	他の教員	全 体	
	n=58	n=65	n=93	N=216・%	
35. 学校保健活動の評価について基準を明確にする	58.6	58.5	41.9	111	51.4
29. 学校保健に関する校内研修を計画し、実現に努める	55.2	47.7	49.5	109	50.5
36. 学校保健活動の評価について時期を明確にする	50.0	58.5	37.6	102	47.2
34. 学校保健活動の評価について対象事項を明確にする	43.1	49.2	34.4	89	41.2
8. 学校保健計画の作成に当たって、保護者、関係機関等の意見も生かすよう努める	50.0	43.1	29.0	84	38.9
31. 地域の関係機関や団体との連携を密にし、適切な協力が得られるよう努める	48.3	38.5	33.3	84	38.9
14. 保健指導が特別活動の計画に位置付けられるよう、特別活動主任との調整を図る	32.8	47.7	33.3	81	37.5
33. 学校保健活動の評価について目的を明確にする	37.9	49.2	29.0	81	37.5
25. 健康診断や学校環境衛生の定期検査後、教職員との懇談の機会を持ち相互理解を深める	34.5	44.6	31.2	78	36.1
37. 学校保健活動の評価について全教職員の理解と協力を得る	39.7	46.2	26.9	78	36.1

表4 職務上困っている事項 (%)

	養護教諭	保体教員	他の教員	3年未満	3年以上	N.A.	全 体
	n=58	n=65	n=93	n=102	n=93	n=21	N=216・%
あ る	89.7	86.2	83.9	91.2	82.8	76.2	186 86.1
な い	10.3	13.8	16.1	8.8	17.2	23.8	30 13.9

以下の経験年数を示した表においては、N.A.の21名は除外して示した。

る回答の集中は認められず、保健主事が活動していくうえで共通に解決を図らなければならない内容を特定することはできないが、あえて10%程度以上という見方をすると、⑤学校保健に関する組織活動の推進に関する内容が4項目、②学校保健計画の作成とその実施に関する内容、③保健教育の計画作成とその適切な実施の推進に関する内容にそれぞれ2項目ずつ含まれており、学校内外における組織づくりを推進していくうえで課題の多いことが推察できる。そしてこれらは、そのまま研修の際の課題になると考えることができる。

6. 学校保健の役割や内容に対する理解

表6は保健主事の学校保健の役割や内容に対する理解の程度について示したものである。

全体で見ると、「十分理解している」に対して「はい」と回答した保健主事は5割強で、理解している者が多いとは判断しかねる結果が示されている。

担当教科別に見ると、回答の程度に有意差が認められ、養護教諭により高いことがわかる。学校保健の役割や内容を十分理解しているからこそ、その任が遂行でき

るという観点に立てば、養護教諭を保健主事に充てることは適切であると判断できる。

一方、理解の程度が経験年数と関連するかという点に着目して、経験年数3年未満と3年以上の者に分類してみると、両者間に差は認められず、経験年数の長短が学校保健の役割や内容に対する理解の程度と関わりの低いことが推察できる。

7. 教職員の意見の生かし方

表7は、教職員の意見の生かし方について示したものである。

「教職員の意見をよく聞き、それを生かすようにしている」の間に「はい」と回答した者は、3/4と比較的高い値を示し、職務遂行に対して保健主事が幅広く意見を求めている実態がうかがえる。担当教科別に見ると、有意差が認められ、養護教諭にその割合の高いことが示されている。養護教諭は学校保健の役割や内容について理解が高い分、横のつながりを生かすことの重要性を認識し意見を求める場合が多いと考えることもできる。なお経験年数では差が認められなかった。

表5 職務上困っている内容（上位10位/39）

(%)

39. その他		26.6
32. 学校保健委員会を組織しその運営に当たる		14.2
29. 学校保健に関する校内研修を計画し、実現に努める		11.5
31. 地域の関係機関や団体との連携を密にし、適切な協力が得られるよう努める		10.1
4. 学校保健分野の運営組織を全教職員が役割分担して活動できるよう調整する		9.6
30. 保護者に対する啓発の方法を工夫し、児童生徒の健康生活に対する実践の効果を高める		8.7
11. 学校保健計画の内容について、個に応じた行き届いた指導ができるよう調整に努める		7.8
14. 保健指導が特別活動の計画に位置付けられるよう、特別活動主任との調整を図る		7.8
9. 学校保健計画の内容について、保健指導での時間が適切に確保されるよう努める		6.4
16. 保健指導に必要な指導資料や教材・教具等について整備し、活用できるようにする		6.0

表6 「保健主事の役割や内容を十分理解している」

(%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全体 N=216	3年未満 n=102	3年以上 n=93
はい	70.7***	49.2	52.7	56.5	54.9	59.1
どちらともいえない	27.6	44.7	36.6	36.6	38.2	36.6
いいえ		4.6	9.7	5.5	5.9	3.2
N.A.	1.7	1.5	1.0	1.4	1.0	1.1

表7 「教職員の意見をよく聞き、それを生かすようにしている」

(%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全体 N=216	3年未満 n=102	3年以上 n=93
はい	84.5**	63.1	77.4	75.0	73.5	77.4
どちらともいえない	13.8	36.9	20.4	23.6	25.5	20.4
いいえ			2.2	0.9	1.0	1.1
N.A.	1.7			0.5		1.1

8. 養護教諭の生かし方

表8は養護教諭の生かし方について示したものである。この表では養護教諭である保健主事は除外して示してある。

養護教諭を生かしていると回答した保健主事は9割近くを占め、保健主事としての職務を遂行していくうえで、養護教諭が重要な位置を占めている実態が示されている。担当教科別に見ると、保健体育科教員よりは、他教科の教員の方に生かしている割合が高くなっている。保健体育科教員の有する専門性と養護教諭のそれとの間に、免許法とのかかわりで、学校保健や学校安全に関する知識・理解の面についてある程度共通する部分があり、そのことが影響しているのかも知れない。

9. 保健主事としての職務遂行に対する意欲

表9は、保健主事の職務遂行に対する意欲について示したものである。

「意欲的に職務を遂行している」の問に対し「はい」と回答した者は約1/3であり、決して高い値であるとはいえない。保健主事の学校保健に対する意欲がその目標の実現に影響を及ぼすことは当然であると考えられるので、この値はさらに向上することが期待される。

担当教科別に見ると有意差が認められるが、特に、養

表8 「養護教諭を生かし協力している」 (%)

	保体教員 n=65	他の教員 n=93	合計 N=158
はい	80.0	93.5	88.0
どちらともいえない	9.2	4.3	6.3
いいえ	6.4		2.5
N.A.	4.6	2.2	3.2

表9 「意欲的に保健主事の職務を遂行している」 (%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全体 N=216	3年未満 n=102	3年以上 n=93
はい	24.1	36.9	40.9	35.2	29.4	44.1
どちらともいえない	55.2	43.1	50.6	49.5	53.9	43.0
いいえ	19.0	18.5	7.5	13.9	16.7	11.8
N.A.	1.7	1.5	1.0	1.4		1.1

表10 「自信をもって保健主事の職務を遂行している」 (%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全体 N=216	3年未満 n=102	3年以上 n=93
はい	20.7	27.7	19.4	22.7	16.7	26.9
どちらともいえない	53.5	43.1	59.1	52.8	55.9	51.6
いいえ	24.1	27.7	21.5	24.1	27.4	20.4
N.A.	1.7	1.5		0.9		1.1

護教諭および保健体育科教員で「いいえ」に回答した者が約2割程度見られることが気になる。意欲という観点からみれば、養護教諭および保健体育科教員よりは他の教員の方が望ましいということになる。ただ養護教諭、保健体育科教員には意欲的に保健主事としての職務を遂行できない何らかの要因があるとも考えられ、それを明らかにして解決の方法を図ることが課題であるといえる。特に、学校保健に対する理解の程度も高く、多くの教員の意見を生かす割合の高い養護教諭に、保健主事としての職務を意欲的に遂行する割合が低いことは、学校保健の成果を高めるうえで決してプラス要因にはならないと考えられる。同時に本結果は、今後、養護教諭や保健体育科教員が保健主事に充てられることは、その意欲の程度から見て、必ずしも好ましいことではないといった判断材料にもなり得る結果である。

なお、ここでも経験年数による差は認められなかった。

10. 職務遂行に対する自信

表10は、保健主事としての職務遂行に対する自信について示したものである。

「自信をもって保健主事の職務を遂行している」の問に対し「はい」と回答した者が1/4以下、「いいえ」についてもほぼ同様な結果が示されている。

自信をもって職務を遂行している保健主事は少ないと判断できる結果が示されている。

自信について、担当教科および経験年数による有意差は認められず、保健主事としての自信は担当教科や経験年数によってもたらされるものではないと言えるのである。

11. 保健主事継続の意志

表 11 は保健主事継続の意志について示したものである。

「保健主事に充てられることについて」の間に「このまま続けたい」と継続の意志を示した者は、22.7%に留まり、「できればやめたい」と回答した者がそれよりも多く、25.0%の回答であった。おそらくそれだけ大変な職務であるということであろう。なお結果は、担当教科および経験年数によって有意差のないことを示している。

12. 生きがい感について

表 12 は保健主事としての生きがい感について示したものである。

「保健主事の職務は」の間に「生きがい感が持てる」と回答した者は全体で 23.6% であり、保健主事に充てられることが必ずしも意義あることと受け止められる場合の少ないことが示されている。なおここでも、担当教科、経験年数による有意差は認められなかった。

13. 自信、継続の意志、生きがい感などについての相互の関連

これまで見てきたように、自信、継続の意志、生きがい

感はいずれもが 23% 程度に留まっていて、必ずしも高いとは判断し難い結果を示していた。そこで、これら回答に対する相互の関連を検討することが必要であると考へ、調査票の設問 3 から設問 12 の間でクロス集計を行なった。その結果、両設問ともに「はい」に回答した者の占める割合が 50% を超えたクロス項目の結果を以下の表 13~16 に示した。

① 学校保健の役割や内容に対する理解×教職員の意見を生かすこと

学校保健の役割や内容について「理解している」と回答した者の 85% (104/122 人) が教職員の意見を生かしており、「教職員の意見を生かしている」と回答した者の 65% (104/162 人) が学校保健の役割や内容について理解していると回答し、相互に関連性の高いことが示されている。つまり、教職員の意見を求めることによって、学校保健の役割や内容をより認識するからであろうか、教職員の意見を幅広く求めることは、学校保健に関する理解を深めるうえで有意に作用すると推察できる。

② 保健主事の職務に対する意欲×自信

表 14 で保健主事の職務に対する意欲と自信の関連性

表 11 「保健主事に充てられることについて」 (%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全 体 N=216	3 年未満 n=102	3 年以上 n=93
このまま続けたい	20.7	23.1	23.7	22.7	15.7	26.9
どちらともいえない	39.7	53.8	55.9	50.9	57.8	44.1
できればやめたい	36.4	21.5	20.4	25.0	26.5	27.9
N. A.	3.4	1.5		1.4		1.1

表 12 「保健主事の職務に対する生きがい感」 (%)

	養護教諭 n=58	保体教員 n=65	他の教員 n=93	全 体 N=216	3 年未満 n=102	3 年以上 n=93
もてる	22.4	13.8	31.2	23.6	18.6	29.0
どちらともいえない	60.3	70.8	58.1	62.5	64.7	60.2
もてない	12.1	13.8	10.8	12.0	15.7	9.7
N. A.	5.2	1.5		1.9	1.0	1.1

表 13 「意見を聞く」×「役割や内容の理解」 (人)

	教職員の意見をよく聞き、それを生かすようにしている			
	は い n=162	どちらとも いえ ない n=52	いいえ n=3	N. A. n=1
学校保健の役割や内容を十分理解している	は い n=122	104	17	1
	どちらともいえない n= 79	49	30	
	いいえ n= 14	7	5	2
	N. A. n= 3	2		1

についてみると、「自信を有している」と回答した者の8割以上(40/48人)が意欲的に保健主事の職務を遂行していると回答し、「意欲を有している」者の半数以上(40/76人)が自信を有している結果が示されている。そして、「意欲的に職務を遂行していない」者の約90%(26/29人)が自信をもって職務を遂行していないという結果も示されている。したがって、意欲と自信は関連性が高いと考えることができる。つまり、自信をもつことが意欲の向上につながると思察されることから、自信をもって職務に当たることができるような研修のあり方が検討されるべきであると考えられる。自信が必ずしも経験年数によって向上するものでないことは先に見たとおりである。

③ 自信×保健主事継続の意思

表15は自信の有無と継続の意思の関係について示したものである。

「自信を有している」と回答した者の半数強(26/48人)が継続の意思を示し、同様に継続の意思を示した者の半数強(26/49人)が自信を有していると回答している。そして、「自信を有していない」者の約半数(27/53人)が「できればやめたい」と回答し、同じく「できればやめたい」と回答した者の約半数(27/55人)が自信がないと回答している。これらの結果から、自信を有することによって継続の意思が高まる割合は高いと推察することができる。意欲的に職務を遂行したり、継続の意思を向上するために自信を持つことの重要性が示唆されている。

④ 保健主事継続の意思×生きがい感

表16は継続の意思と生きがい感の関連について示したものである。

継続の意思を示している者の約2/3(32/49人)が「生きがい感もてる」と回答し、「生きがい感もてる」

表14 「自信」×「意欲」 (人)

	自信をもって保健主事の職務を遂行している			
	はい n=48	どちらとも いえ n=115	いいえ n=53	N. A. n=2
意欲的に保健主事の職務を遂行している	はい n=76	40	32	4
	どちらとも いえ n=110	7	80	23
	いいえ n=29	3	3	26
	N. A. n=3	1		2

表15 「継続の意志」×「自信」 (人)

	保健主事に充てられることについて			
	このまま 続けたい n=49	どちらとも いえ n=111	できれば やめたい n=55	N. A. n=3
自信をもって保健主事の職務を遂行している	はい n=48	26	17	4
	どちらとも いえ n=115	20	71	24
	いいえ n=53	3	23	27
	N. A. n=3			2

表16 「生きがい感」×「継続の意志」 (人)

	保健主事の職務は			N. A. n=4
	生きがい感 もてる n=51	どちらとも いえ n=135	生きがい感 はもてない n=28	
保健主事に充てられることについて	このまま 続けたい n=49	32	16	1
	どちらとも いえ n=111	16	83	11
	できれば やめたい n=55	3	36	16
	N. A. n=3			3

と回答した者がほぼ同じ割合(32/51人)で継続の意思を示している。逆に、「生きがい感がもてない」と回答した者の6割弱(16/28人)が「できればやめたい」に回答している。保健主事の職務を継続するうえで、職務に生きがい感をもつことの必要性が指摘できる。

なおこれら以外でも、「意欲」と「生きがい」、「自信」と「生きがい」などで相互に5~7割の範囲で、比較的高い関連性を示す結果が得られている。

学校保健の成果が保健主事の活動のあり方に依存していることは言うまでもない。ここでの結果が示すように、自信や意欲、生きがい感は相互に関連が高いと判断できることから、それらをもつことができるような研修のあり方や、支援することができる人的、物的条件の整備が必要であると考察する。

まとめ

実態調査をもとに保健主事の活動上の問題を明らかにし、その解決方法について検討した。結果はおおよそ以下のようにまとめられる。

1. 多くの保健主事が活動上留意しているのは、保健管理の適切な実施に関する内容、学校保健と学校教育全体との調整に関する内容であるが、その程度については担当教科によって差が認められ、保健主事の担当教科が留意の観点に影響を及ぼしていることがうかがえた。
2. 逆に、留意していない割合が高いのは、学校保健の評価に関する内容であるが、ここでも担当教科によってその程度に差が認められる。
3. 学校保健の評価に関して保健主事の留意していない割合が高いことから、その成果が十分把握されていないことが考えられる。保健主事によって評価の観点、方法、時期などが明確にされ、実施されることが望まれる。
4. 8割強の保健主事が活動上の問題を抱えている

が、その問題は多岐にわたり特定できない。

5. 9割弱の保健主事が養護教諭を生かし、協力している。そして、保健主事である養護教諭は学校保健についての理解度が高く、教職員の意見も聞いて生かしている割合が高い。したがって、養護教諭を保健主事に充てることは有効である。
6. しかし、保健主事の職務遂行に対する意欲については、養護教諭が有意に低いことから、たとえば養護教諭の二人制など、本来の職務との関連を考慮した措置が望まれる。
7. 保健主事の職務遂行に対する意欲、自信、継続の意思、生きがい感はいずれも高いとは判断し難い。しかし、自信が高まれば、意欲や継続の意思、生きがい感も高まることがうかがえることから、自信をもって職務を遂行できるような研修のあり方が検討されるべきであると考察する。
8. 保健主事の活動上の問題として指摘できる事項は、いずれも保健主事としての経験年数とは関係ないといえる。

注記と参考文献

- 1) 高石昌弘:「学校保健」『新教育学大事典』, 第一法規, 第1巻, p. 601, 1990.
- 2) 日本学校保健会編:『保健主事の手引』, ぎょうせい, p. 8, 1996.
- 3) 吉田瑩一郎:「保健主事」『新教育学大事典』, 第一法規, 第6巻, p. 254, 1990.
- 4) 2) 前掲書, p. 8.
- 5) 2) 前掲書, pp. 9-11.
- 6) 全国学校保健主事会編:『保健主事・保健主任のための学校保健必携 改訂版』, ぎょうせい, 1995.
- 7) 特集保健主事としての養護教諭「学校保健のひろば」, 体育科教育, 1998. 1. 別冊 大修館書店.

なお、本研究の一部は、平成9年度日本体育大学父母会奨励研究費によって行なわれたものである。

(1) 下記の1.～38. のそれぞれの項目について、留意している程度をお答え下さい。判断の基準は、A：十分留意している、B：留意しているほうである、C：あまり留意していない、D：ほとんど留意していない、E：どちらともいえないとし、該当する記号に○印をつけて下さい。

- | | |
|--|---------------|
| 1. 児童生徒の健康状態や健康生活の実践状況、学校環境衛生の実態等を把握する | [A B C D E] |
| 2. 児童生徒の健康問題を学校運営の重点課題とし、解決が図られるようにする | [A B C D E] |
| 3. 学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付ける | [A B C D E] |
| 4. 学校保健の分野の運営組織を全教職員が役割分担して活動できるよう調整する | [A B C D E] |
| 5. 教務主任や教科主任と連携し、保健教育、保健管理と教育計画全体との調整を図る | [A B C D E] |
| 6. 学校保健計画の作成に当たって、学校保健の評価記録を生かすよう努める | [A B C D E] |
| 7. 学校保健計画の作成に当たって、児童生徒の実態を生かすよう努める | [A B C D E] |
| 8. 学校保健計画の作成に当たって、保護者、関係機関等の意見を生かすよう努める | [A B C D E] |
| 9. 学校保健計画の内容について、保健指導での時間が適切に確保されるように努める | [A B C D E] |
| 10. 学校保健計画の内容が全教職員に理解されるよう、作成の過程を大切に | [A B C D E] |
| 11. 学校保健計画の内容について、個に応じた行き届いた指導ができるよう調整に努める | [A B C D E] |
| 12. 保健指導の年間計画について、学年ごとの題材名、ねらい、内容を明らかにする | [A B C D E] |
| 13. 題材ごとや活動ごとの指導計画を作成し、適切な時期に提供できるよう努める | [A B C D E] |
| 14. 保健指導が特別活動の計画に位置付けられるよう、特別活動主任などとの調整を図る | [A B C D E] |
| 15. 保健学習の内容について保健指導との関連が図られるようにする | [A B C D E] |
| 16. 保健指導に必要な指導資料や教材・教具等について整備し、活用できるようにする | [A B C D E] |
| 17. 毎朝の健康観察における目的や方法について、全教職員の周知徹底を図る | [A B C D E] |
| 18. 健康観察を通して児童生徒の心身の状態を把握し、教育活動に生かすよう努める | [A B C D E] |
| 19. 定期や臨時の健康診断が全教職員の協力のもとに円滑に実施できるよう調整する | [A B C D E] |
| 20. 定期健康診断に際して、全校的に健康意識が高められるよう配慮する | [A B C D E] |
| 21. 学校環境衛生の定期点検や日常点検が適切に行われるようにする | [A B C D E] |
| 22. 学校環境衛生の定期点検や日常点検の結果を生かし適切な環境の維持・改善を図る | [A B C D E] |
| 23. 児童生徒が快適な学校生活をおくれるよう美化活動を推進する | [A B C D E] |
| 24. 児童生徒の健康生活の実践状況を把握し、保健指導の計画や改善に役立てるよう努める | [A B C D E] |
| 25. 健康診断や学校環境衛生の定期検査後、教職員との懇談の機会を持ち相互理解を深める | [A B C D E] |
| 26. 健康診断の後、学校医、学校歯科医との懇談の機会を持ち相互理解を深める | [A B C D E] |
| 27. 学校環境衛生の定期検査後、学校薬剤師等との懇談の機会を持ち相互理解を深める | [A B C D E] |
| 28. 学校保健活動の推進のために校務分掌組織との連携を図りながらその実施に努める | [A B C D E] |
| 29. 学校保健に関する校内研修を計画し、実現に努める | [A B C D E] |
| 30. 保護者に対する啓発の方法を工夫し、児童生徒の健康生活に対する実践の効果を高める | [A B C D E] |
| 31. 地威の関係機関や団体との関係を密にし、適切な協力が得られるよう努める | [A B C D E] |
| 32. 学校保健委員会を組織しその運営に当たる | [A B C D E] |
| 33. 学校保健活動の評価について目的を明確にする | [A B C D E] |
| 34. 学校保健活動の評価について対象事項（保健教育、保健管理、組織活動等）を明確にする | [A B C D E] |
| 35. 学校保健活動の評価について基準を明確にする | [A B C D E] |
| 36. 学校保健活動の評価について時期を明確にする | [A B C D E] |
| 37. 学校保健活動の評価について全教職員の理解と協力を得る | [A B C D E] |
| 38. 学校保健活動の評価の結果を次の計画と活動に生かす | [A B C D E] |

(2) 保健主事としての職務を遂行していくうえで、現在困っている事項がありましたら上記1.～38. の中から順位つけて3つ選び、【 】欄にその番号をお書き下さい。3つない場合はあるだけで結構です。なお、困っているか該当項目が1.～38. にない場合は、その順位の箇所に 39. とお書きください。また、困っている理由について、それぞれ下欄より選び【 】欄に記号をお書き下さい。

1～39 ①～⑳ 1～39 ①～⑳ 1～39 ①～⑳
 困っている1位【 】 () 2位【 】 () 3位【 】 ()

- 理 由
- | |
|---|
| ①学校長の理解不足 ②関係主任の協力不足 ③養護教諭の協力不足 ④保健体育科教員の協力不足 ⑤その他の教員の協力不足
⑥学校医の協力不足 ⑦学校歯科医の協力不足 ⑧学校薬剤師の協力不足 ⑨保護者の協力不足 ⑩関係機関・団体の協力不足
⑪運営組織の不備 ⑫指導計画の不備 ⑬指導資料の不足・不備 ⑭教材の不足・不備 ⑮指導時間の不足 ⑯自分自身の能力不足
⑰児童生徒の意識の低さ ⑱保護者の意識の低さ ⑳その他 |
|---|

下記の質問について該当する番号に○印をおつけ下さい。

- (3) 学校保健の役割や内容を十分理解している。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- (4) 意欲的に保健主事の職務を遂行している。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- (5) 教育活動全般に精通している（精通するよう努力している）
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- (6) 教職員の意見をよく聞き、それを生かすようにしている。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- (7) 養護教諭を生かし協力している
①はい ②いいえ ③どちらともいえない ④兼務である
- (8) 自信をもって保健主事の職務を遂行している
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- (9) 保健主事に充てられることについて
①このまま続けたい ②できればやめたい ③どちらともいえない
- (10) 保健主事に充てられることは学習指導に（養護教諭の場合は本来の職務に）
①プラスになる ②マイナスになる ③どちらともいえない
- (11) 保健主事に充てられることは生徒指導に
①プラスになる ②マイナスになる ③どちらともいえない
- (12) 保健主事の職務は
①生きがい感もてる ②生きがい感はない ③どちらともいえない

(14) 貴校の学校保健委員会についてお答え下さい。

- 1. 学校保健委員会は ①ある
- 2. 平成8年度の委員会は () 回開催された
- 3. 協議された内容として該当するもの全てに○印をつけて下さい
①食習慣 ②生活リズム ③歯の健康 (8020運動など)
④いじめ ⑤登校拒否・不登校 ⑥飲酒 ⑦喫煙
⑧薬物の使用 ⑨エイズ ⑩その他性に関すること
⑪交通安全 ⑫生活習慣病予防 ⑬インフルエンザの予防
⑭その他 ()

- ②ない
- ↓ 設置されていない理由に○印をつけて下さい (複数選択可)
- ①学校長の方針
- ②教職員の理解や協力が得られない
- ③養護教諭の協力が得られない
- ④保護者の協力が得られない
- ⑤地域の専門家の協力が得られない
- ⑥保健主事としての職務が多忙すぎる
- ⑦設置を必要とする課題がない
- ⑧その他

- 4. 組織について該当するもの全てに○印をつけて下さい
①教員中心 ②児童生徒の代表も委員 ③保護者の代表も委員 ④地域の専門家も委員 ⑤学校医も委員 ⑥学校歯科医も委員
⑦学校薬剤師も委員 ⑧議題によっては児童生徒も参加 ⑨議題によっては保護者の代表も参加 ⑩議題によっては地域の専門家も参加
⑪議題によっては他校の教員等も参加 ⑫議題によっては学校医も参加 ⑬議題によっては学校歯科医も参加 ⑭議題によっては学校薬剤師も参加

(15) ご自身のことについて該当するものに○印, または該当する数字等をお書き下さい。

- 1. 性別 ①男 ②女
- 2. 年齢 ③～25 ④～30 ⑤～35 ⑥～40 ⑦～45 ⑧～50 ⑨～55 ⑩55～
- 3. ご担当の職務または教科
①小学校養護教諭 ②小学校教諭 ③中学校養護教諭 ④中学校 () 科 ⑤高等学校養護教諭
⑥高等学校 () 科
- 4. 教諭 (専任としての) 経験年数 () 年目
- 5. 本校での保健主事経験年数 () 年目
- 6. 他校での保健主事経験年数 () 年

ご協力ありがとうございました。